

日銀の視点

3月下旬に本店から水戸に着任しました。毎月、この欄を借りして、硬軟の話題を取り上げていきたいと思えます。

このところ「魅力度ランキング」で話題になる事の多い当県ですが、着任後、程なく、「魅力度が低いのではなく、知名度が高くないだけ」であり、「地味だけど、実力も中身もぎゅぎゅっと詰まった県」である事がよく分かりました。

44の市町村を見渡すと、豊かな自然のインフラ・観光資源や、年々充実する陸・海・空の産業インフラ。全国2位の産出額を誇る農業。日立・鹿島エリアなどを中心とする分厚い製造業や、つくばエリアを中心とす

日銀水戸事務所長 桑原 康二

る先端技術の集積。立地面積が4年連続全国1位となった工場立地。それらを反映して全国上位にある県民所得。

幕末から明治維新にかけて、水戸藩が歴史の舞台の一つとなつたほか、笠間焼、結城紬、真壁の歴史的町並み、岡倉天心や横山大観が創作に励んだ五浦の

れません。また、他の自治体と同様、人口減少や地域格差などの構造問題も抱えています。

こうした中、当県の健全な発展のために日銀の立場から貢献していきたいと考えています。そこで、私も日銀水戸事務所の主な役割をあらためてご紹介させていただきます。

具体的には、毎月の「県金融経済概況」や四半期ごとの県内の「短観調査結果」を公表しています。また、皆さまのご要望に応じて、さまざまなテーマでの出前講演も行っています。

三つ目として、県金融広報委員会の事務局として、金融知識の普及・教育活動を推進する役割も担っています。

「中身詰まった県」実感

六角堂、バラエティーに富んだ美術館・博物館など、文化の面でも魅力は列挙しきれません。自然、産業、文化と非常にバランスの取れた豊かな県との印象を日に日に強くしています。

ただ「地域ブランド」という点では、何でもそろつたバランスの良さがあって、対外的なPRを難しくしているのかもしれない。

一つ目は、発券銀行の役割です。日々の金融機関との銀行券の受け払いを通じ、県内における通貨の円滑な供給・流通を支えています。地味ですが、皆さまの暮らしや経済活動の前提となる非常に重要な仕事です。二つ目の役割は、当地の金融経済に関する調査や日銀の政策・業務に関する情報提供です。

(第2土曜掲載)